

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ (亀ユニット)		
所在地	倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	平成23年11月22日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200107&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200107&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽療法・生け花教室・手芸教室など利用者が楽しめるアクティビティを提供している。開所から6年を経過して自力では何も出来ない利用者もおられるが、職員の支援で楽しむ事が出来ている。介護度1の方から5の方までおられるので、利用者全員の自尊心を傷つけないように配慮している。食材に関しては出来るだけ地元の業者に肉や魚、米などを配達してもらい毎食職員の手作りの食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年は玄関・リビングルーム・居室ドアと様々な場所に手作りの飾りが一杯。とても華やかでホームが一段と楽しそうになっていた。以前から続けている音楽療法・生け花教室に加えて、ボランティア講師による手芸教室も開催しているとのことである。利用者と職員とによる作品の数々を飾り付けている。季節に合わせてクリスマスツリーの飾りつけをしている利用者もいた。教室に参加してもできない人もいるが、一緒に雰囲気を楽しんでいるようだ。教室の他にも行事や毎日の活動に様々な取組みを入れ、利用者が居眠りする生活ではなく、能力を生かして楽しく生活できるよう、職員達が連携した綿密な支援が行われている。設立から6年目を迎え高齢化と重度化は少しずつ進んでいるが、職員によるこのような積極的取り組みや気配り、個別の配慮などにより、利用者と職員の信頼関係ができ、利用者が明るく穏やかに過ごせている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の掲げる理念を基に新しい年度に向けて職員間で話し合い解りやすい言葉の目標を作り上げ、それに実践をつなげていけるように努力している	事業所が掲げる「五徳」の理念に基づき、スタッフ間で、年度目標を話し合いで決め、それを目標としてスタッフ間で、意識化している。事業所の理念と目指すサービス目標は、事務所に掲げられており、スタッフの目に留まる状態になっている。	毎年、理念に基づいた、わかりやすい目標を皆で決め、実践に生かすようにしており、スタッフルーム等に、手書きで書いたものを掲げるなど、工夫したら楽しいと思う。利用者を書いてもらえばより皆が意識するかも。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションを使用しているので順番がきたら清掃している。地域の店で買えるものは買うようにしている	地元での食材の買い物や、行商の魚屋さんからの購入、近隣の散歩時の関わり等を通じた地域との関わりがある。法人代表の保育園やデイサービスとの交流を持つほか、代表の住まいも近くにあり、そうした地域での関わりがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然に来訪して来られたり電話で相談される方もあるので相談を受けている。また利用者ご家族の友人の話やボランティアの先生からも「友人の親が…」という相談をされる場合もある		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、外部評価の前にはアンケートの確認や説明等を行っている。終わったあとには外部評価当日の様子などを報告している	運営推進会議には、倉敷市介護保険課、包括支援センター、サブセンター、民生委員、家族、デイサービス管理者、法人理事長、ホーム管理者等が、そろって開催しており、情報交換や、意見を聞くことが出来ている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近では運営推進会議にも毎回出席してもらえるので、疑問点など細かく説明してもらっている	2ヶ月に1度の運営推進会議に、介護保険課からの参加があり、事業所の実情報告や、取り組み等を伝え、市からの情報や助言等聞くなど、連携は取りやすくなっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびすべての職員が身体拘束とはどういうものかを理解するように努力している。基本的に夜間以外は施錠はしていない	身体拘束に関しても、研修でも取り上げ、スタッフ間で理解を深めるようにしている。帰宅願望が非常に強い利用者もいるが、日中は玄関の施錠もせず、見守りで対応している。そのため、喫煙される利用者も自由に玄関の外で一服されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の虐待を考える」という冊子を参考に短い時間ではあるが少しずつ研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居の利用者が成年後見人制度を利用されるという機会があったので会議の時間にどういものか学習はしたし、その利用者との関わりの中で具体的な事も少しずつ理解している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まり契約の段階になったときに十分に時間を取り説明を行い、疑問点は尋ねやすいように理解していただけるように努力している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケート結果や来訪時の会話の中からそのような話が聞けたら運営推進会議で議題に上げ検討をしている	家族には毎月たよりで情報を伝え、できるだけ面会や行事に来てもらうようにし、さまざまな話を聞くようにはしている。直接的な意見や要望は上がりにくいですが、運営推進会議では感想や提案を出してもらうようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の職場の中で職員の意見や提案を聞くことが出来る。管理者はその意見を代表者に言うことが出来る	毎月、ユニットごとのスタッフ全員参加の会議を持っている。事前にユニットリーダーと管理者で打ち合わせを行い、スタッフの意見等を吸い上げる工夫をしている。担当者による起案について全員で協議したりしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表が出来上がったら渡している。また職員の個々の状況はその都度報告している。条件等についても年度ごとに見直しをしている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の条件を満たしているものには受験をするように勧めている。研修も職員の力量に合わせて勤務日に受けられるように調整している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市のGH事業者向けに専門分科会が定期的で開催されているので管理者が主に出席して、他事業者の職員と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面接し、共同生活で対応出来るか判断している。入居当初は出来るだけ本人のペースで生活出来るように努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の前に何度か本人や家族と面会する機会を設けている。一度にはたくさんの事は聞けないので機会のあるごとに聞くようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が相談に来られた時点で在宅生活で困っている事などを聞いて、何もサービスを受けていない場合介護保険でどのようなサービスがあるか説明している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を生かしながら、食事作りや洗濯物の片付けなどを会話をしながら一緒にするようにしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	消耗品の補充をお願いしたり、受診・外出の援助など家族と本人が顔を合わせる機会を多くして、家族との繋がりを感じてもらえるようにしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方が面会に来やすい雰囲気作り、面会時には居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している	かかりつけ医の受診も関係継続の支援になっている。高齢化と重度化もあり、入居以前も病院などの施設のことが多く、関係が途切れがちだが、本人の気持ちを大切にしていくことで、ホームでの新しい馴染の関係づくりに努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度の難聴の利用者やコミュニケーションが困難な利用者が多いので、職員が間に入り利用者同士の会話が繋がるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設に転居された利用者には色紙や写真を退居時に差し上げたり、その後も面会に行ったりしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から、例えば入浴時は1対1になるので会話がはずむので思っていることを聞き出したりする事が出来る。コミュニケーションが困難な方は今までの様子や家族からの情報で判断している	過去の生活歴や、生活の状況を把握することで、利用者の暮らし方や思いをつかむようにしている。他者の関わりを拒み、長年入浴もせず、不衛生な独居生活を続けてきた利用者が、入浴が大好きになるなど、新しい思いや意向も生まれてきている。	利用者が一番穏やかに生活できる場であるために、スタッフ皆が同じように『気づき』をできるように…との管理者の思いを、具現化するためには、『気づき』をどんどんと言語化、文書化していったらどうか。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報以外にも日頃の会話の中で聞いた生活歴などをメモにとり、新しい情報は記録の残すようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や言った言葉など忘れないようにメモにとり職員全員が把握できるようにして、その内容を記録し送りしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	直接ケアをしている職員を交えて現状のケアの状況とこれからの課題を検討して、家族の意見も聞き介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議の中で、個別ケースのカンファレンスを行っており、出された意見を基にケアプランを作成している。ケアプランに関しての担当者会議も行われている。精神面を含め、残存機能を生かす計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子は早番、夜間の様子は夜勤者が分けて個別記録に記入し、何日か前の様子など見られるようにしている。異変があればその都度報告し、ケアの見直しを検討する		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時に原則的に決めていることは家族の状況によって柔軟に対応している。例えば消耗品の補充や受診援助は家族に依頼しているが事情に応じて事業所でも対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材は出来るだけ地元の業者から搬入してもらおうようにしている。調理は事業所の職員が行っているが、農協の婦人部の調理品も利用している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入居以前からのかかりつけ医に診てもらっている方が多い。家族の受診介助が困難で往診を希望される方もいるので、往診時には職員が体調の様子などを伝えている	特にホームとして、提携病院等は決めておらず、利用者それぞれのかかりつけ医に受診に行っている。基本的に家族が対応しているが、家族対応が困難な場合は、ホームで対応している。かかりつけ医が特に無い人には、近隣の開業医から選んでもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことは申し送り、記録に残し週1回の訪問看護の看護師に相談している。24時間相談出来る体制をとっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になったら依頼があれば医療機関に情報提供を行い、足を運ぶようにしている。様子を見たり家族からも話を聞いて、退院の時期が来たら主治医から話が聞けるように依頼している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約のときに見取りは原則的に行っていない事を説明しているが、そのときになって状況を見ながら相談をさせていただくようにしている。	看護師がおらず、看取りは現段階では困難で行っていない。しかし、高齢化と重度化のため、いつどのような状況になるかもわからず、病院に入院した利用者が、すぐ動けなくなったり、オシメになったりを見ていると、最後までホームで暮らしてほしいとの思いを持たれている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には一人で判断することが困難になるので近くの応援を呼び相談をしたり、管理者等に連絡をとる。また訪問看護には24時間相談する事が出来る。外部の救急対応の研修には参加している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の非難訓練については半年に一度行っている。前回初めて水害時の避難訓練を利用者全員車に乗ってもらい実施した	避難訓練は、法人の協力を得て行っている。今年水害時想定で避難訓練を行っており、海に近く低地である地域性を考慮した訓練を行っている。訓練後の意見として、非常時持ち出し袋を準備しておくことが出されたとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室はその方の自宅と同じなので声をかけて入室するようにしている。食事の介助が必要な方は職員が間に入り視線の妨げになるようにしている	一人一人に合わせた言葉かけが来ている。入浴時やトイレ誘導時、トイレ介助時も尊厳を気づけないよう心掛けている。排泄が自立している人には、出来るだけ任せるようにし、トイレが汚れたら、掃除をすればいいと考えている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の記録には本人が発した言葉を必ず書くようにしている。動き出したときには何がしたいのか本人に尋ね誘導している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アクティビティへの参加は声かけや促しをしないと一日TVの前で居眠りと言う事になりかねないので、その利用者が出来る事をしてもらい。嫌がる場合は無理強いせず天気が良ければデッキで過ごしたり散歩する事もある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容に来院してもらいそれぞれの好みに応じた散髪をしてもらっている。毛染めの要望があれば職員が対応している。何も出来ない利用者には髪を梳くとか服装の乱れも気にして直すようにしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の咀嚼や嚥下の機能を把握しながら美味しく食べる事が出来るように援助している。可能な利用者には配膳から後の片付けも手伝ってもらっている	家庭の食事と同じで、その日の担当スタッフが、買い物に行ってメニューを決めており、皆の楽しみとなっている。盛り付けや、食器洗いも利用者が参加している。好き嫌いに応じて、メニューも個別の対応や、好みの物を買ってきてあげるなど、喜ばれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェックして記録に残している。食事摂取はとりやすい形状にして必要な利用者には介助している。水分量は1000ml/日を目指して声かけ、介助している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力で出来る方には声かけ、誘導している。介助が必要な利用者は誘導して歯ブラシ等で口腔ケアを行っている。義歯は夜間職員が洗浄剤を入れてきれいになっている。必要があれば訪問歯科の依頼も行って		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレに行った時間を記録、間隔を見ながら誘導を行っている。可能な限りトイレでの排泄が出来るように支援している	ホワイトボードに、排泄記録が書き込まれており、スタッフはそれを見ながら、いつトイレに行ったかをすぐ把握するようにしている。その人に合った誘導で、トイレでの排泄援助を行っており、病院ではオシメだった人がトイレ誘導でリハビリパンツになっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の援助、便秘気味の方には起床時牛乳を飲んでもらったりしている。排便の確認と記録により下剤の調整を行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応曜日で入浴する日を決めている。順番はそのときの様子で決めている。一番に入浴したいという希望のある方には出来るだけ添い、昨日入っていても忘れて入っていないと言う方には入ってもらう	一日おきで、入浴の日を決めているが、どうしても希望があれば、毎日でも入ってもらっている。一般浴槽で、スタッフが介助しており、立位困難な人は、二人がかりで入れている。介護5の状態の人は、シャワー浴で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い利用者には個別で対応して話をしたり一緒にTVを見るなどして、安心して眠れるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の情報は個人ファイルで管理し職員全員が把握できるように努めている。服薬時に間違いが起こらないように、名前や日付を書き込み利用者に渡すときにも再度確認するようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で楽しみが持てるように音楽療法・生け花教室・手芸教室を2週間に一回づつ設けて参加してもらっている。男性利用者が楽しめるアクティビティを見つける事が今の課題である		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事が近くなったら利用者に行きたいところなどを聞いて行き先を検討している。日常的にも散歩や買い物、昼食にも気軽に出かけているのでこれからも継続したい	散歩や、外食、買い物等外出を取り入れている。秋には、紅葉狩りに行ったが、4グループに分かれ、遠く、中間、近く等、コースをさまざまに設定し、体力等に合わせ、適切なコースに参加できるように企画。全員が参加できるように配慮されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来る方は持っている利用者もあるが、他の利用者はお金を使う事も困難になってきている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話をかけたいという利用者はいない。年賀状は職員が支援をして元旦に家族に届くようにしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所に立った職員からフロア全体を見渡せるような作りをしているので、動きがあればすぐに対応して転倒を防ぐ事が出来る。玄関やユニット内は利用者で作った貼り絵や小物を飾り季節感を感じる事が出来るようにしている	居間が中心にあり、台所、居室が居間に面してあるため、見守りが出来やすい。玄関や、居間には手作りの飾りがいっぱい、手芸ボランティアの方が作ってくれた作品や、利用者が作った作品で賑やかになっている。現在はクリスマスの飾りつけで季節感があふれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファを置いてゆったり過ごせる空間を作っている。そこからバリアフリーでウッドデッキに続いているので、天気の良い日には外の風を感じながら隣ユニットの利用者と歓談できる		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ自宅で使用していたものが持ってきてもらえるように、居室には家具等は置いていない。自宅からの私物がほとんどない方もおられるので写真等で雰囲気を出すようにしている	それぞれ、自宅からなじみのものを持ちこまれており、自宅を処分されて入居されている方は、着物がぎっしりと入ったタンス一竿持ち込まれたり、仏壇を持って来られている方や、今までの生活を継続されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誘導しないとトイレにも行けない利用者が多いが自力で行かれる方のためにトイレまでの導線には物を置かないように気をつけている。入浴する方には事前のトイレは浴室側に行ってもらいトイレから直接浴室に入れるようにしている		